

# HB-style

2012年  
春期 特別号  
Vol. 26



HB-style

Vol.26 春期特別号

## 2012年度 新メンバー紹介

今年も光物性に新たなメンバーが加わった。彼らの自己紹介、意気込みなどを特集する。



## 2012年春期 物理科ソフトボール大会

毎年惜しいところで優勝を逃してきた光物性チーム。M2による特訓の成果は発揮されるのか？！



# 2012年度 新メンバー紹介

桜の咲く季節、光物性研究室に4人の新たなメンバーが加わった。彼らの自己紹介、研究に対する意気込みをうかがった。

えんどりょうた  
遠藤 僚太



はじめまして、今度光物性に入った遠藤です。入った当初は不安でいっぱいでしたが、優しく面白い先輩達のおかげで充実した研究生活を送れています。これからは少しでも先輩達においつけるよう、自分のスキルアップを目指していきたいと思います。

きしもとなおや  
岸本 直也



どうも、光物性研究室に新しくに入った岸本です。自分は超伝導に興味をもってこの研究室を選びました。特に放射光科学研究センターHiSORでしかできない実験もたくさんあるので、教授や先輩方と共に最先端の研究をしていきたいです。よろしくお願いします。

なつめたつばさ  
棗田 翼



こんにちは、棗田翼です。広島の大都会こと福山市出身です。研究室では、スピンに依存した物性を研究したいなーと思っています。暇な休日は寝るかボールを投げるかして過ごしています。よろしくお願いします。

こんにちは。藁科 拓也です。光物性に入って数日が経ちますが、楽しく過ごしています。スポーツはテニスをしています。休みがあったらバイクでツーリングにも行ったりします。これから光物性でたくさんお世話になりますが、よろしくお願いします。

わらしなたくや  
藁科 拓也



今後の活躍を期待しています！！



2012年春期

# 物理科ソフトボール大会



## 優勝したい！

光物性チームは、大会前の評判では毎回「強豪」と呼ばれる。しかし、ここ数回の大会は惜しいところで優勝を逃している。負けず嫌いの多い光物性のメンバーは、研究の間に時間を作り、練習に励んだ。

## 予選リーグ

前日の夕方から夜にかけて大雨が降ったが、大会当日は晴れ。大会は無事、開催された。最近の研究室でのブームにあやかり、チーム名は「トムヤム君」まずは予選リーグである。予選リーグを一位で通過出来れば、優勝へ大きく近づく。意気込んで臨んだ初戦は勝利。しかし、緊張の糸がとぎれ、油断が生まれたのか、二戦目は敗北。予選リーグは二位通過で決勝トーナメントへ駒を進めた。

## 決勝トーナメント



決勝トーナメント初戦は、大会2連覇中で今大会の優勝候補の、チーム「城〇ラ」。決勝はトーナメント戦、負けは許されない。光物性に緊張が走る。

「打球が外野に抜けない！」相手チームの堅い守備に動揺する光物性。ここで点を失っては負ける。全員の気持ちが一つになり、守備では相手の強烈な打球に食らいつく。練習の成果が出たか、試合は序盤、遊びとは思えない投手戦となった。

## M2の意地

こつこつと塁を埋め、満塁のチャンスを迎えた光物性。

打者はM2の児玉。「なんとかヒットを一本！」その願いに応えるかのように児玉バットはボールを捉え、センターオーバーの満塁ホームラン。勢いに乗った光物性はM2市来も満塁ホームランを放ち、快勝した。



この勝利で「実質三連覇！」などと浮かれた光物性は、次の試合で精彩を欠いて敗北。またしても優勝を逃し、悔しい結果となった。

結果はどうあれ、光物性の団結を深めた大会となったのは間違いない。



# 2012年 春期 光物性カレンダー

## 4/16 新入生歓迎会

光物性研究室と放射光物理・物性研究室、放射光科学研究センター職員の方々と、今年度から新たに加わったメンバーの歓迎会を行いました。沖縄風の料理屋さんで40人程度の大宴会となり、大いに盛り上がりました。「幹事は大変でしたが、皆の笑顔を見る事が出来、達成感を感じました。」M1一同



## 5/3 光物性OB会

光物性研究室を卒業し社会人となったOBが研究室に集い、親睦会が開催された。全国各地からOBが駆けつけた。会の終わりには参加者全員でサイクリングに繰り出した。それぞれが学生時代に戻ったかのように満喫した一日であった。

来年も再びOB会を開催することを約束し、それぞれの帰路についた。



## 5/16 鉛系新型トポジカル絶縁体発見

本研究室の木村昭夫准教授を中心とする研究グループが、広島大学放射光科学研究センターの放射光を用いた高分解能・角度分解光電子分光実験を用いて、鉛化合物  $\text{PbBi}_2\text{Te}_4$  の表面に質量ゼロの電子が実現している事を発見しました。この結果から、将来この特殊な電子を用いた次世代の超低消費・高速デバイスの実現が期待されます。

本研成果は、米国の科学雑誌フィジカル・レビュー・レターズ『Physical Review Letters』に掲載されました。

Physical Review Letters

原著論文 :K.Kuroda *et al.*, Phys. Rev. Lett. **108** 206803 (2012)

## 編集部からのお知らせ

### ・スタッフ募集

HB-style 企画・編集に参加していただける方を募集しています。

### ・企画の募集

取り上げてほしい企画やテーマを募集しています。気軽にお寄せください。

### ・今後の企画について

「HiSOR II 計画の現状」、「光物性 OB/OG に聞きました」、「理学部 D 棟」、「光物性部活動」、「教えて！中島大先生！！」などのトピックを考えています。

### ・発行予定について

毎シーズンの発行を予定していますが、作者の都合により遅

延、または休刊となる場合があります。ご了承ください。

企画・編集・取材

市來健吾、黒田健太、児玉純一

